



(題字 小黒千足 学長)

第339号

(平成4年12月号)



▲ 留学生支援方策について活発な議論が展開された富山県留学生等交流推進会議（平成4年11月24日（火）於：高志会館）

円内は、同会議で富山は素晴らしいと留學生活の感想を述べ、推進会議委員に感銘を与えた本学経済学部留学生 林 美山君（マレーシア、写真右）と富山医科薬科大学留学生 倪 健偉君（中国）

目 次

学 内 諸 報

- ◆ 平成4年度富山県留学生交流推進会議の開催 3
- ◆ 富山大学生生活協同組合が創立30周年記念祝賀会を開催 4
- ◆ 平成4年度日本育英会奨学金返還説明会を開催 5

学内トピックス

- ① 小杉町南太閤山公民館の「ちびっこ探険隊」が本学構内を見学する!! 6
- ② 本学名誉教授の会が研修会で旧交を温められる!! 8
- ③ 熱き部活に燃える!!
— 第15回学内フレッシュラリーから — 10

学 事

- ◆ 平成4年度科学研究費補助金交付決定者(追加) 12
- ◆ 平成4年度富山大学国際交流事業基金第3種外国留学への奨学金採択者 12
- ◆ 平成4年度富山大学国際交流事業基金第2種外国人研究者の招へい事業(B)採択者 12

寄 稿 海外レポート

- 「ミシガン大学での海外研修を終えて」 13
— 工学部 教授 竹越 栄俊 —

諸 会 議 16

- レクリエーション
- ◆ 学内卓球大会 17

雑 談

- ◆ 「今年の新語・流行語大賞」 17

海 外 渡 航 者 18

職 員 消 息 18

訃 報 19

主 要 行 事 20



学 内 諸 報

留学生支援方策に活発な議論を展開!!

『平成4年度 富山県留学生等交流推進会議』

—— 県内受入れ留学生年々急増!! (11月1日現在 191名) ——

平成4年度富山県留学生等交流推進会議（議長：小黒千足富山大学長）が、去る11月24日（火）パレ・プラン高志会館「嘉月の間」において開催されました。（表紙写真参照）



▲ 推進会議議長の小黒学長の司会で、活発な意見が交された平成4年度富山県留学生等交流推進会議

会議では、小黒議長のあいさつに始まり、続いて、本会議に列席された文部省学術国際局留学生課留学生交流推進室 熊谷英男 推進係長から、「21世紀を展望した留学生受入れの対応方針」等我が国の基本的施策の現状について説明を受け、議事に入りました。

まず、同推進会議運営委員会の増田委員長（本学学生部長）及び道管幹事（本学学生課長）から、

- ① 富山県内における外国人留学生の受入れ状況
- ② 富山県留学生等交流推進会議運営委員会における審議の状況
- ③ 富山県内在住外国人留学生等生活実態調査結果の概要

の以上3点について報告があり、県内留学生のうち私費留学生が65%と多数を占めている現状で、奨学金の月額が4万円以下又は全く受けていない自費留学生が全体の47%を占めていること、これらの留学生が種々のアルバイトで生活費を補填していること、さらに、十分な宿舍の確保が得られず現住居に不満を訴えていること等の実態が浮き彫りにされました。

同会議は、これらのことを踏まえて、留学生支援の方策、特に、奨学金制度の充実及び良質・低廉な宿舍の確保について活発な議論を交わし、今後、県内の大学等高等教育機関、行政機関、民間企業、さらに各種支援団体がそれぞれの立場で、支援方策の推進に一層

努力することになりました。



- ▲ 21世紀を展望した留学生交流の総合的推進の必要と、併せて国及び大学の努力に加え、地方公共団体、民間企業及びボランティア等の各種団体の積極的な取組みと幅広い支援に期待を寄せていると文部省の方針を説明する文部省留学生課熊谷係長

また、最後に、富山大学経済学部4年生 林 美山君（マレーシア）と富山医科薬科大学大学院薬学研究科博士課程後期1年生 倪 健偉君（中国）が、富山での生活の現状について感想を述べました。二人は、富山の素晴らしい自然や人情豊かな県民性に感謝している。また、母国に帰ってからは、国際交流の懸け橋となって精一杯頑張りたいと力強い決意を披露して、同会議出席者に深い感銘を与えました。



- ▲ 会議終了後の懇親会でも留学生交流の支援方策の論議に花が咲いた

富山大学生協同組合が創立30周年記念祝賀会を開催!!

去る11月21日(土)午後1時から、富山大学学生会館大集会室において、富山大学生協同組合の創立30周年記念祝賀会が開催されました。

祝賀会の概要

寒い天候にもかかわらず、小黒学長をはじめとする本学関係者や全国大学生協連合会及び金沢・福井大学生協、富山県内の生協の関係者、そして、取引業者など多数の出席を得て、盛大に本学生協の創立30周年が祝われました。

現生協理事長の教養部 葛 教授のあいさつの後、学長、学生部長の祝辞や生協連合会からも祝辞が述べられました。次いで、取引業者へ感謝状を贈呈し、第一部が終わりました。

その後、参加者全員の記念写真の撮影が行われました。

第二部のレセプションでは、第2代生協理事長の養田先生の御発声で乾杯し、懇親に入りました。

永原 茂(富山医科薬科大学名誉教授)、若林嘉一郎、酒井康彦の両本学名誉教授、教養部 藤井昭二教授、教育学部 加瀬正二郎教授及び新潟大学 山口 博教授からそれぞれお祝いの言葉が述べられました。そして、参加者の紹介を行うなどして、和やかなレセプションが終了しました。

生協の歴史を振り返って

昭和37年4月20日黒田講堂で設立総会が開かれ、その時、初代理事長として選ばれたのが教育学部の佐々

木龍作先生(故人)でした。旧寮の青冥寮を中心に食堂・購買・書籍食品の事業を始め、昭和38年11月には工学部(高岡)で、昭和40年には学生会館に喫茶部ができました。

その後、「学園紛争」によって事業の停滞はありましたが、昭和48年12月には、現在の大学食堂、昭和60年4月には五福に移転統合した工学部で事業を開始し、事業内容も旅行事業を行うなど拡充され、現在に至っています。

葛 生協理事長のごあいさつ

去る11月21日の生協創立30周年記念祝賀会には、学長先生をはじめ、多数の大学関係者の御列席と激励のお言葉を賜り心より感謝申し上げます。

本年5月の通常総代会で理事長に選任されてから未だ日が浅く、改めて御指導をお願いいたします。

さて、生協は、単に物品を提供するだけでなく、学生としてふさわしい生活を送ってもらうための各種の提案や支援を行う事業団体として、大学教育の責任の一端を担って行きたいと考えています。

そのために、大学の前提としての勉学・研究・教育を支援し、食生活を支え、万一の時に備える共済活動、日常の社会生活や旅行などの自己開発に貢献するなどの事業をより一層発展させていきたいと願っています。

役職員一同一丸となって奮闘する所存ですので、各方面からの多大な御支援、御協力をお願いします。



▲ 富山大学生協同組合創立30周年記念祝賀会の出席者全員で記念撮影(平成4年11月21日(土)於:学生会館)

平成4年度

日本育英会奨学金返還説明会に多くの奨学生が集う!!

—— 育英事業の果す役割りの認識が更に深まる ——

平成4年度日本育英会奨学金返還説明会が、去る11月26日(木)15時20分から経済学部201講義室で行われました。

現在本学には、日本育英会奨学生が、1,318名(うちⅠ種 1,071名、Ⅱ種 247名)いるが、このうち、平成5年3月満期予定者314名(Ⅰ種 259名、Ⅱ種 55名)を対象に説明会が行われたものです。

当日は、みぞれ混じりのあいにくの寒い空模様となったが、寒い中、満期予定者の7割を超える230名が出席し、熱心にメモを採るなど耳を傾けていました。

説明会は、中林厚生課長の開会のあいさつと講師の紹介で始まり、次いで、日本育英会名古屋支所収納課榎本免除係長から、当日配布された返還の手引き等の資料に基づき、次の5項目について分かり易く説明されました。

- 日本育英会事業の現状と返還の重要性について
- 借用証書の記載要領について
- 返還金の払込み方法について
- 返還に関する諸願・届の手続きについて
- 返還免除制度とその手続きについて

次に、育英友の会富山県支部の笠原理学部教官から、「育英友の会」について、育英新聞と育英友の会のしおりに基づき説明があり、加入のPRが行われました。最後に、質疑応答を行い奨学金返還説明会が終了しました。

この説明会の開催で、被貸与者に、これまで貸与された奨学金での学生生活に想いをいたし、卒業後の確実な返還をすることの意義を再認識させるとともに、日本育英会事業の更なる発展の必要性を認識させる上でも大変有意義なものとなりました。



▲ 多くの日本育英会奨学生が参集し開催された奨学金返還説明会(平成4年11月26日 於:経済学部201講義室)



▲ 資料を見ながら育英会事業の重要性を改めて理解し、説明を熱心に聴く奨学生

平成4年度日本育英会奨学生数

学部別	入学年度別		昭和63年度以前入学		平成元年度入学		平成2年度入学		平成3年度入学		平成4年度入学		合計	学部別	平成3年度入学		平成4年度入学		合計
	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種	第1種	第2種			第1種	第1種			
人文学部	5		25	4	41	8	50	11	35(1)	7	186(1)		大学院人文科学科	4	4	8			
教育学部	1	1	48	16	61	9	55(1)	13	35	8	247(1)		大学院経済学科	4	2	6			
経済学部	7	2	55	12	64	14	64(1)	5	73(1)	15	311(2)		大学院理学科	8	10	18			
理学部	6		38	11	33(1)	17	30	7	34(1)	18	194(2)		大学院工学科	18	15	33			
工学部	6	4	70	16	60	13	57(2)	23	57	14	320(2)								
合計	25	7	236	59	259(1)	61	256(4)	59	234(3)	62	1,258(8)		合計	34	31	65			

(注) () 内数は、併用貸与奨学生数で内数である。

学内トピックス ①

小杉町南太閤山公民館主催の

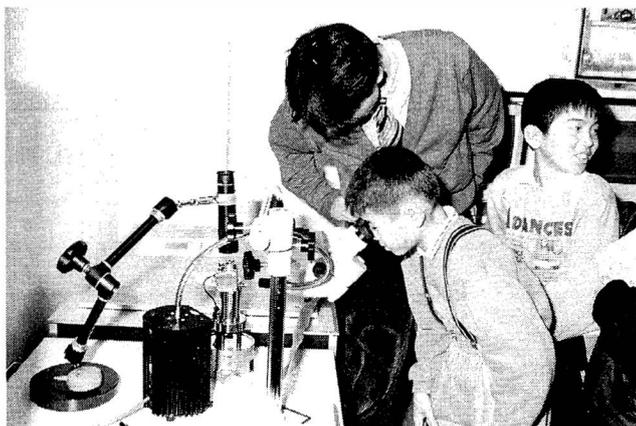
『ちびっこ探険隊』が本学構内を見学

—平成4年11月30日(月)の学校休業日を利用して—



▲ 村井教授、瀧田助手らの操作説明で実際にワークステーションのおもしろさを体験する(於:工学部)
去る11月29日(日)に両親学級が開催された射水郡小杉町立中太閤山小学校では、翌11月30日(月)が振り替えて学校休業日となったことから、同校下の南太閤山公民館(東山俊男館長)と同家庭教育学級(福田美子学級長)の合同企画で傘下の児童たちに、「ちびっこ探険隊」への参加が呼びかけられました。

町福祉バスを利用した今回の探険コースには、富山県総合情報処理センター及び本学の工学部、附属図書館、黒田講堂の見学がセットされ、当日の応募・参加者は、低学年5名、中学年13名、高学年15名の男女33名の児童と引率の東山館長ら3名、計36名が本学の探険にまいりました。



▲ 電子情報工学科 中 助手のアドバイスでトンネル顕微鏡を真剣に見入るちびっこ(於:地域共同研究センター)

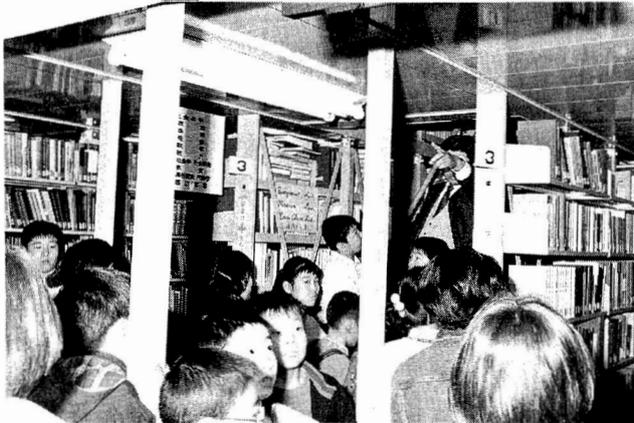


▲ ディスプレイを喰い入るように見つめ、鮮明なおもしろ画像処理に夢中になるわんぱく隊員(於:工学部)

一行は、午前の部で富山県総合情報処理センターを見学した後、正午前、本学を訪れ、まず、生協食堂で教職員・学生に混じって昼食を摂り、本学の学園生活の一部に胸のときめきとこれからの見学コースに期待をかけてか相当はしゃいでいました。

引き続き、工学部に移動し、2班に分かれて、電子情報工学科の中 助手(物性デバイス工学)からトンネル顕微鏡の説明で「原子・三次元の世界」を、物質工学科の松田技官(材料設計工学)から、走査型電子顕微鏡の説明でミクロの世界の不思議さに思わず感嘆の声を上げていました。次いで、電子情報工学科知識情報工学講座の村井教授及び瀧田助手らからの説明により直接コンピュータディスプレイに向って各自がそれぞれ操作してワークステーションのおもしろさを実感として体験しました。

工学部の見学を終えた一行は、小春日和となった構内を興味津津の面持ちで歩いて、附属図書館へ移動しました。秋元図書館専門員の案内で、開架閲覧室に入った後、4層(階)にびっしり整理された書庫をひと回りして図書のパラダイスに驚いていました。



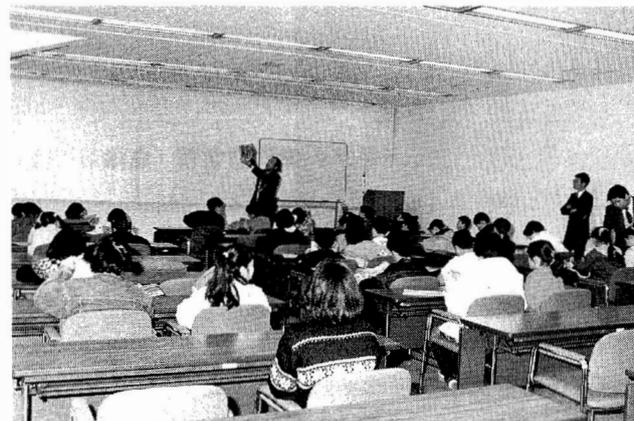
▲ 初めて見る図書館書庫に大学を感じる児童達（於：附属図書館）



▲ ヘルン文庫前ロビーで小休憩する探険隊

最後に落ち葉舞うメインストリートを歩いて、新装なった黒田講堂を庶務課職員の案内で見学して、大学の施設・建物の偉容さと構内の広さを肌で味わっていました。

にぎやかで元気な子供達の澄んだ瞳が大変印象的で、



▲ 黒田講堂の生い立ちを説明する庶務課山上事務官

また、それぞれ工夫を凝らして説明された職員の方々も、いずれ富山大学を志願してくれるのではあるまいかとの期待感も手伝ってか、微に入り細に入り熱心に本学を紹介されました。

今後、このような機会が増えることも本学のイメージアップに連がることであり、種々の要望に精一杯応えていく必要を感じさせられたちびっこ達の本学訪問でした。

また、先日、「わんぱく探険隊」を企画されました小杉町南太閤山公民館の東山館長から、次のような礼状が寄せられました。

平成4年12月6日

富山大学学長 殿

射水郡小杉町南太閤山
公民館長 東山 俊男

初冬の候 貴台にはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、去る11月10日当公民館から「わんぱく探険隊」として、ちびっ子達が貴大学を訪れました折り、何かと御高配を賜り誠に有難うございました。子供たちは家に帰り、早速と見学の模様・印象などを家族に、誇らしげに話をしていたようであります。父兄の方々から大変喜んでいただとの嬉しい声が公民館に届きました。

素晴らしい施設、素晴らしい先端機器など夢いっぱい探険話をする子供たちの顔が輝いていたとのことでした。御報告させていただきます。

大変お忙しいなか、わんぱく盛りの子供たち、何かと失礼を致したと存じますが、暖かい関係各位の御好意に改めて感謝申し上げます。

まもなく歳の瀬を迎えます。御多用の折り愈の御発展を御祈念申し上げお礼の言葉にかえさせていただきます。有難うございました。



▲ 小春日和で暖かい日であったが、ユニークな卵型をした黒田講堂見学の頃は半分陽も傾きかけていた

富山大学名誉教授の会が県内の研修旅行!!

—— 平成4年11月12日，魚津・黒部方面 ——

富山大学名誉教授の会の研修会が，去る11月12日（木）に開催され，富山職業訓練短期大学等魚津・黒部方面の移りゆく郷土を視察されました。

この研修会は，本年度春季に続き第2回目の企画で，三上房男名誉教授（現富山職業訓練短期大学校長）のお世話で黒坂富治代表をはじめ12名の名誉教授の出席があり，伸びゆくYKK吉田工業（株），新装なった魚津埋没林博物館等を視察し見聞を広められるとともに，出席名誉教授の近況が語り合われる等大変有意義な研修会となったようです。以下その研修日程と三上名誉教授のコメントを紹介いたします。



▲ 新装なった魚津埋没林博物館「根っこランド」を視察する本学名誉教授の会

研修会日程

平成4年11月12日（木）

9：50	集合（富山大学事務局玄関）	14：40～15：00	（移動）
10：00	大学発	15：00～16：30	富山職業訓練短期学校（魚津市川縁）
10：00～11：00	（移動）	16：30～17：30	（移動）
11：00～12：00	YKK吉田工業（黒部事業所）	17：30	大学着
12：00～12：40	昼食（YKK）		
12：40～13：10	（移動）		
13：10～14：00	根っこランド（魚津埋没林博物館）		
14：00～14：20	（移動）		
14：20～14：40	魚津市桃山運動公園		

富山大学名誉教授の会研修会を終えて

去る4月末の連休の折り、四谷名誉教授のお世話で、砺波のチューリップフェアーを参観したのが大変好評で、6月の総会の時、次回は筆者の勤務地である魚津方面へ、ということになり、11月12日、大学のバスを出していただき、12名の先生方の参加を得て、次のとおり見学旅行を実施しました。

YKK 吉田工業株式会社
魚津埋没林博物館（根っこランド）
桃山運動公園
富山職業訓練短期大学校

前日まで荒れ模様の天気、世話役としては大分気を揉みましたが、幸い当日は好天に恵まれ、和気あいあいのうちに無事終了することが出来ました。

当初の予定では「魚津水族館」も含まれていたのですが、吉田工業での、卒業生を混じえた昼食会で話が弾み、予定を大幅に遅らさざるを得なくなり、水族館は後日お孫さんのお供でも、ということにして割愛する羽目になりました。根っこランドはこの春大改装したばかりで、日本カーバイトで開発された「人口蜃気楼」も新たに設置されております。

好天には恵まれましたが、眺望があまり良くなく、桃山公園から遠望できる能登半島の雄大な姿をお目かけられなかったのが残念でした。また、富山職訓短大では、施設の一部を見ていただき、休憩の後帰って来ましたが、大学着がちょうど午後6時、秋の日は短く、真っ暗でした。

三上房男名誉教授（元工学部教授）



▲ 富山職業訓練短期大学校の正面玄関で記念のスナップに収まる参加名誉教授

〔前列左から、坂井、養田、黒坂、三上、楠瀬、後列左から、
若林、澤泉、酒井、廣瀬、四谷、頭川、吉岡の各名誉教授〕

学内トピックス ③

スポット

“富大自動車部意気盛ん”

熱き部活に燃える!!

『第15回富山大学学内ラリーが大成功』

絶好の秋晴れとなった去る11月22日(日)本学体育会自動車部(部長:工学部物質工学科 砂田 聡 助手, 主将:経済学部経済学科3年 近藤新三郎, 部員:男子38名, 女子8名, 計46名)が主催して、第15回富山大学学内ラリーが「富山大学フレッシュラリー」と銘を打ち、盛大に行われました。

日夜、勉学に勤しむ傍ら課外活動にも心血を注いでいる学生の心意気を感じ、近藤キャプテンに以下のインタビューを試みてみましたので紹介します。



①実施年月日等 平成4年11月22日(日)午前8:01から1分間隔で1台ずつスタートした。
(出発点:本学西門第1体育館横)

②出場台数 24台

③コース及び競技方法

保安基準に合致した四輪自動車による交通安全タイムラリー。なお、コース図と指示書はスタート30秒前に出場者に渡し、一般公道を使用した。

④当日の様子

快晴のもと70人の参加者たちも気持ちよくラリーを楽しむ。なお、優勝者には、ダンロップタイヤ1セット、オイル4ℓ、スピーカー、パリ・モスクワTシャツ、バドミントンセット、バット&グローブ、三菱Tシャツ2枚及びジュース2ℓを、また、出場者全員に豪華賞品をプレゼントした。

Q:今年の学内ラリーの概要を聞かせてください。

A:今年も例年どおり11月22日に自動車部主催で『学内ラリー』を開催しました。この『学内ラリー』もはや第15回を迎えました。自動車部では、毎年6月頃に『ファミリーラリー』を、11月頃に『学内ラリー』を開催しています。『ファミリーラリー』では、出場者を全国から募集し、また、出場対象をラリー経験者から初心者まで幅広く、規模も大きいのに対し、『学内ラリー』では、出場対象は学内関係者及び学生となっており、規模も小さいなっています。しかし、自動車部では、この『学内ラリー』を『ファミリーラリー』の成功に結びつく第一歩として部一丸となって頑張っており開催しております。

ラリー成績

(ゼッケン)(氏名)		(ゼッケン)(氏名)	
優勝	5 岡田 圭二	フレッシュ賞	14 北嶋 孝行
第2位	1 奥田 武詩	記念賞	21 玉井裕二郎
第3位	18 大表 悟	ナビ賞	11 森 智哉
第4位	13 桜井 克之	レディーズ賞	7 村尾 香子
第5位	22 上山 崇	スカベンI賞	2 吉岡 武志
第6位	17 中西 義仁		
第10位	24 村地 良二	ラリーコン未使用部門	
第20位	4 石積 広行	第1位	20 平田 芳信
		第2位	6 鈴木 究
		第3位	12 尾島 健一



▲ 24台の参加車のトップを切ってスタートするゼッケン1の奥田号（於：出発点とゴールになった本学西門第1体育館横）



▲ 青空のもと順調に第6チェック・ポイント（滑川市内）を通過するゼッケン6の鈴木号

Q：今回のラリーの特徴又は特筆すべき事項は何ですか？また、実施結果の感想なども併せてお聞かせください。

A：今年は、「フレッシュラリー」として、富大の学内だけでなく、北陸近辺の学生にも参加を呼びかけて開催しました。

富山大学だけでなく、北陸大学、金沢大学、金沢工業大学、新潟大学、福井大学から出場してくれました。出場後のアンケートには、「来年も出たい。」や、「春のファミリーラリーにも出たい。」という参加者がいっぱいいてくれました。参加者の方々が喜びながら帰っていったことが、僕達自動車部にとっての最高の喜びです。

Q：今回のラリーが大成功だったとのことですが、自動車としての今後の抱負と常日頃の部室の雰囲気についてお伺いします。

A：来年の6月には、ファミリーラリーを開催します。これは、今年の学内ラリー以上に部員一同頑張っていきます。また来年は、自動車部30周年の年に当た

ります。現在、全国各地でご活躍されている自動車部OB、OGの方々をお呼びし、記念式典を開きます。この他には、来年は行事がたくさんあります。来年も自動車部は燃えます。とにかく、アットホームで明るい我が自動車部です。

顧問教官の工学部砂田先生、ラリーの感想と部活について語る！！

- ☆ 学内ラリーは毎年秋に開催し、今年で15回になりました。今までは文字どおり学内から出場者を募集しておりました。今年からはコンセプトを少し変え、ラリーに初めて挑戦する新人を対象に加え、ラリーの楽しさを本学に限らず内外の多くの人にわかっていただくことを目標にしました。この新しいコンセプトは自動車部員自身の内から誕生したことは顧問としてたいへん喜ばしく感じております。
- ☆ 自動車部はスポーツクラブである。自動車部の活動は複数でおこなう球技と同じである。複数の部員が同じ目的をもって組織を作り、役割分担を的確に遂行し、精進したチームだけが勝つことができる。本ラリーはまさに組織の力がないと魅力あるラリーを主催することはできない。部員全員が目標に向かって一丸となって活動し、組織力で勝ち取った成果に大いに感動してほしいと常に願っている。



▲ 後援企業の寄付金で準備された豪華賞品の数々



▲ 部員一丸で企画したラリーが成功裡に終了し、閉会式会場も満員となった(於：学生会館大集会室)

学

事

平成4年度科学研究費補助金交付決定者（追加）

研究種目	研究代表者			研究課題	配分予定額		
	所属	職	氏名		平成4年度	平成5年度	平成6年度
一般研究(C)	経済学部	助教授	澤野 雅彦	地域移動の職業的キャリアに与える影響について	900	0	0

平成4年度富山大学国際交流事業基金第3種外国留学への奨学金採択者

所属学部・学科・学年	氏名	性別	指導教官	留学先	留学期間
人文学部語学文科学科4年	近藤 俊介	男	藤井 一行 教授	クラスノヤルスク大学 (旧ソ連)	平成4年10月1日 ～平成5年3月31日
人文学部語学文科学科3年	山本香代子	女	矢澤 英一 教授	クラスノヤルスク大学 (旧ソ連)	平成4年10月1日 ～平成5年6月30日

平成4年度国際交流事業基金第2種外国人研究者の招へい事業(B)採択者

受入れ教官			招へい期間	招へい研究者		研究課題
部局	氏名	職名		氏名	所属・職名	
理学部	櫻井 醇児	教授	平成 4.10.20～4.10.24 (5日間)	ジャック Jacques シュワイツァー Schweizer	グルノーブル原子エ ネルギー研究所基礎 研究部門中性子散乱 グループ研究室長 (フランス)	Ce化合物の熱現象・磁性と 中性子散乱
工学部	坂井 純一	教授	平成 4.11.1～4.11.5 (5日間)	マーガリッタ Mrgarita P. リュトバ P. Ryutova	ノボシビルスク核物 理学研究所上級研究 所ノボシビルスク州 立大学理論物理部助 教授(ロシア)	太陽プラズマにおける非線 形波動の研究
教養部	中越 矩方	教授	平成 4.11.15～4.11.17 (3日間)	Y. -F. S. ペーターマン Petermann	ジュネーブ大学 専任講師 (スイス)	ある種の数論的関数に関す る誤差項の評価

寄稿 海外レポート

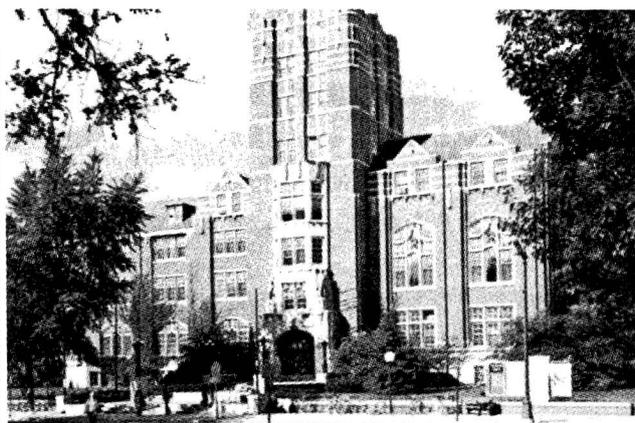
ミシガン大学での海外研修を終えて

工学部機械システム工学科 教授 竹越 栄俊

私は、今年7月28日から9月27日までの2ヶ月間、文部省短期在外研究員として、北アメリカ及びヨーロッパの5ヶ国を回ってきました。

主なる滞在地は、アメリカのデトロイト市から西に約80kmの所にある人口約10万人のアナーバ（Ann Arbor）という小さな市です。ここには、アメリカでも10指に入る大きな総合大学ミシガン大学（The University of Michigan）があります。ここは街全体が大学キャンパスという感じで、約200の大学の建物は街のあちこちに散在しており、徒歩ではとても1日で回りきれません。そのため、何ルートかの無料大学バスが朝7時から深夜2時頃まで走っており、大学人の便宜を図っています。

私は、市郊外のキッチン付きモートルの一室を借り、40日間過ごしました。比較的バスの便が良く、1ヶ月25ドルの市内全線バスを買い、毎日便利に利用しました。私が行っていた工学部へは、市内バスと大学バスを乗り継いで約40分で行くことができ、丁度良い運動になりました。



▲ 大学のキャンパス活動の中心ミシガンユニオン

私を招へいしてくれたのは、工学部機械工学の熱流体研究室のW.J.Yang教授です。先生は、台湾出身のアメリカ人で日本語もお上手で、大変な親日家で私としては非常に助かりました。先生の御専門は幅広く、強制対流、沸騰、多孔質体の伝熱、回転体内の伝熱と

流動、熱流体数値解析、更には生物熱工学まで、熱と流体に関するあらゆることを研究され、国際的にも著名な方です。私が今回留学し、研究したテーマは、「粉体を利用した断熱に関する研究」で、特に、高性能低温断熱に関するものです。これは、先生の多孔質体の伝熱の御研究と直接、間接に結びつくもので、実験装置の見学、ディスカッション等を通じて、私の研究に大いに役立ちました。

アメリカ、ヨーロッパへは、本学の先生方も多数行っておられ、いろいろと報告されていますので、私が特に紹介するまでもありませんが、庶務課から依頼を受けましたので私なりに聞いたこと、感じたことを述べさせていただきます。

〈大学の研究室〉

アメリカの大学では、原則として教官積算校費というようなものではなく、教授自身が企業、学協会、財団、研究所等から研究費用を集めなければなりません。しかし、集めた研究費は全部使えるわけではなく、大学によっても異なりますが、そのうちの何パーセントかは共通経費として大学の管理・運営のため取られます。ミシガン大学工学部では、実に59%が取られ、自分の手に残るのは41%ということになります。したがって、研究費を集めるのが教授の一番大切な仕事の一つです。何もしないと誰も研究費はくれません。そのため、教授は研究提案（プロポーサル）し、それが認められなければならないわけです。これが実に大変で、提案した研究が相手の利益にならないと分かれば、途中でも研究費は打ち切られます。

アメリカの大学の研究室は金がかかります。なぜなら、直接的な経費の他にスタッフの人件費、場合によっては、ドクターの学生の学費や生活費の面倒も見なければならぬからです。それがなければ、今のアメリカの大学では、ドクターの学生はほとんど集まらないでしょう。Yang教授研究室でも、助教授の人件費、並びに6名の博士課程院生のうち、2名の学費と生活

費が必要とのことでした。先生がぼつりと私に漏らされた言葉が、今も強く私の耳に残っています。それは、「日本の大学の講座費という制度は大変良い制度である。額が少なくても毎年定期的に研究費が入るということは、非常に羨しい。」と。実際、研究室は質素なものです。古い計測器を大切に使っていますし、学生のコピー、ファックスなどはすべて本人持ちでした。

アメリカの大学では、学部及び大学院修士の学生に卒論、修論がないようです（修士では、修論を課す先生もいる。）。したがって、研究室の実労部隊は博士課程の学生です。私がミシガン大学に行ったときは、丁度夏休み中であつたにもかかわらず、彼らは日夜研究に励んでいました。しかし、学部、修士の学生はほとんど見ませんでした。なぜなら、卒論、修論がないからです。これはアメリカの大学教育の欠点でしょう。技術者を育てるためには、若いうちに自ら実験、研究ができる教育をやらないといけないと思います。日本の大学では、卒論、修論をやらせ、特に、自然科学系の学部では夏休みであるにもかかわらず、学生が真剣に実験、研究に取り組んでいるのは、大変素晴らしいことと思いました。

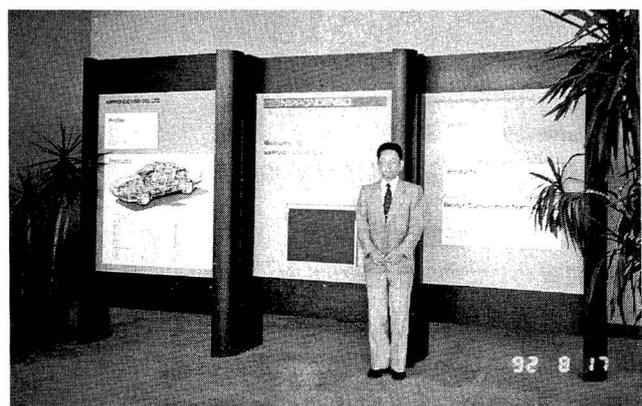
最近、日本ではコンピュータが急速に発展し、大学の研究室でも大いに役立っていることは周知のことですが、日本以上にコンピュータが利用されているのは、アメリカの大学です。Yang教授は、これが問題だと言っていました。コンピュータを使ったシミュレーション等の研究は、機械工学でもますます重要になってきますが、従来からやってきた油まみれになった実験の研究もやはり重要です。アメリカの大学では、アメリカ人がこのような実験的研究を嫌う傾向にあるそうです。また、就職も製造業離れが甚だしく、手を汚す実験研究をしているのは、大部分東洋系の大学院生であると聞きました。アメリカの製造業における生産技術が日本に遅れをとった理由の一つは、ここにあると思いました。日本でも、理工系の学生に最近同じような現象が起こっています。我々大学教官は、これらを熟慮し、学生の教育、指導に当たらねばならないでしょう。

〈アメリカの労働者〉

アナーバから更に西方へ300kmぐらい行くとシカゴに着きますが、丁度その中間地点にバトルクリーク(Battle Creek)という人口3万人ぐらいの小さな市

があります。この市の郊外には企業団地が作られており、現在、日本の大手及び中企業が14社進出しています。

私は、幸いにもここの大企業と中企業の2社を見学する機会に恵まれました。いずれも自動車部品メーカーで、そのうちの一社は、日本でトップの部品メーカーです。工場の敷地は非常に広く、その環境は、日本と較べて全く素晴らしいものです。工場を見学してまず感じたことは、最新の工場であるにもかかわらず自動化、省力化が少し遅れていることです。見学後、この点について質問すると、工場責任者は素直にそれを認めました。それには2つの理由があり、1つは人件費が安いこと、もう1つは雇用促進のためです。確かに、人件費は日本に較べて安いようです。州によっても異なるが、ミシガン州の工場労働者(ブルーカラー)の賃金は、時給8~10ドル程度です。アメリカ人は週40時間働きますから、1時間10ドルとしても年間所得は2万ドル(日本円で250万円)です。日本のボーナスという制度はなく、せいぜいクリスマスに1週間分ほどの手当がつく程度です。夫婦で働くとしても、一家族の年間所得は500万円以下です。これは、日本よりかなり少ないように思われますが、実質的にはそうではないのです。なぜなら、生活必需品である食料品、電気、ガス、水道、ガソリンなどのエネルギーが日本の半額以下、家賃も面積当たりでは、やはり半額以下、子供の教育費は日本のように塾や家庭教師をつけないから非常に安い。そして、冠婚葬祭に金を使わないのです。自動車、電化製品などの耐久消費材、衣類、日用品は、日本と同程度の値段であるけれども、無駄なものに金を使いませんから、生活がしやすいわけです。それに較べて、日本人は何を期待しているのか、子供の教育に多大の金をかけ、親戚、友人の交際に金を使い過ぎています。



▲ 見学した自動車部品メーカーの正門にて(筆者)

アメリカの労働者は、責任感が強くよく働きます。確かに、一部の労働者の中に怠け者はいるようです。黒人は、工場のような単純作業の繰返しの仕事に長続きしないと、祖父から孫まで3世代も生活保護を受けている家族もあるという話を聞きました。しかし、これは、ほんの一部の話であって、どこかの首相の言った「アメリカの労働者は怠けもの」という言葉は間違いです。

私が特に感心したのは、女性労働者です。工場労働者、バスの運転手、ガードマン、土木作業員など様々な分野に進出し、日本の若い女性なら絶対にやらないような仕事を平気でやっています。私が深夜12時に乗ったタクシーの運転手が女性で、びっくりしました。道路工事の現場でも、若い女性がスコップを持って働いている光景を何度も見ました。工場でも若い女性が手

袋もしないで、爪の周りを真っ黒にして男性と同じ仕事をしていました。男性も女性だからといって、決して過保護はしていません。少なくとも労働者に関する限り男女同権で、これは与えられたものでなく、アメリカの女性自身が勝ち取ったものだと思います。

以上、まとまりのないことを書きましたが、短期間の滞在でほんのアメリカの一端をかいま見た程度ですので、間違いや私の主観が入っていますことを付け加えておきます。

(注 記)

筆者は、平成4年度文部省短期在外研究員として、平成4年7月28日から平成4年9月27日までの間、「粉体を利用した断熱に関する研究」をテーマにアメリカ合衆国のほか、カナダ、オーストリア、ドイツ及び連合王国へ外国出張されました。

冬 期 点 検

山野に白雪が舞い、寒さ厳しい季節となりました!!

- 暖房器具の点検整備を励行しましょう。
- 外出時は必ず火元を確認するようお互いに心掛けましょう。
- 灯油の貯蔵及び試薬品の管理等に十分注意しましょう。

火災予防と安全管理に万全を期して災害の防止に努めましょう!!



平成4年度第3回授業料等減免選考委員会（11月12日）
（審議事項）

- (1) 平成4年度後期分授業料免除者の選考について
- (2) 教育課程改革に伴う規程の整備について
- (3) その他

平成4年度第5回補導協議会（11月12日）
（審議事項）

- (1) 平成4年度在来生合宿研修について
- (2) 平成4年度厚生補導研究会について
- (3) その他

第83回構内交通対策委員会（11月13日）
（審議事項）

- (1) 不法入構等に対する防止対策等について
- (2) 教育改革に伴う規則等の一部改正について
- (3) 構内交通規制業務の合理化について
- (4) その他

平成4年度第1回レクリエーション委員会（11月16日）
（議 題）

- (1) 平成4年度職員厚生経費の使用計画について
- (2) その他

平成4年度第5回入学試験実施委員会（11月17日）
（審議事項）

- (1) 専門委員会委員について
- (2) 平成5年度富山大学学生募集要項[追加](案)について
- (3) 平成5年度大学入試センター試験富山大学試験場の実施体制について
- (4) 平成5年度富山大学入学試験業務予定について

平成4年度第2回保健管理センター運営委員会
(11月19日)
（審議事項）

- (1) 平成4年度保健管理センター運営費予算(案)について
- (2) 平成4年度保健管理センター業務計画(案)について
- (3) その他

平成4年度第2回保健管理センター委員会（11月19日）
（審議事項）

- (1) 富山大学保健管理センター自己点検評価委員会内規(案)について
- (2) その他

平成4年度第4回大学院委員会（11月20日）
（審議事項）

- (1) 平成5年度富山大学大学院理学研究科（修士課程）及び工学研究科（修士課程）第2次学生募集要項について
- (2) 富山大学大学院経済学研究科委員会規則の一部改正について
- (3) その他

平成4年度第10回評議会（11月20日）
（審議事項）

- (1) 富山大学大学院経済学研究科委員会規則の一部改正について
- (2) その他

平成4年度第2回自己点検評価委員会（11月20日）
（議 題）

- (1) 自己点検評価項目の策定等について
- (2) 平成4年度自己点検評価の実施項目について
- (3) 平成4年度自己点検評価の実施方法について
- (4) その他

平成4年度第5回入学試験委員会（11月24日）
（審議事項）

- (1) 平成5年度富山大学学生募集要項[追加](案)について
- (2) 平成5年度大学入試センター試験富山大学試験場の実施体制について
- (3) 合格発表時における高等学校名の公表について

平成4年度第2回学寮補導委員会（11月25日）
（審議事項）

- (1) 水道料の負担割合について
- (2) 暖房用ボイラー燃料費の負担割合について
- (3) 寮生との話し合い(いわゆる団交)について
- (4) その他

平成4年度第8回事務協議会（11月27日）
（議 題）

- (1) 当面の諸問題について

レ ク リ エ ー シ ョ ン

学内レクリエーション

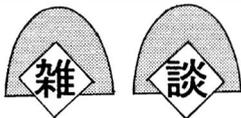
〈卓球大会〉

本学レクリエーション委員会体育部卓球班と文部省共済組合富山大学支部共催による平成4年度学内卓球大会が、去る11月13日(金)、本学第2体育館で開催され、部局対抗6チームにより熱戦が繰り広げられました。

なお、成績は次のとおりでした。

〈大会成績〉

(優勝)	教養部チーム
(次勝)	教育学部チーム
(3位)	本部チーム



平成4年の新語・流行語大賞

金 賞

『ほめ殺し』と『複合不況』

『きんさん・ぎんさん』, 『カード破産』, 『冬彦さん』

はやり言葉の年間大賞は、『きんさん・ぎんさん』、新語部門の金賞は、竹下政権誕生に介在したとされる右翼皇民党の『ほめ殺し』。'92日本新語大賞選定委員会(草柳大蔵審査委員長)は12月1日、平成3年2月から平成4年11月までに生まれた新語・流行語の中から優秀作を決定した。

年間大賞に輝いたのは、国民的アイドルになった百歳の双子姉妹『きんさん・ぎんさん』。誕生日の感想『うれしいような、かなしいような』(きんさん)に語録賞も贈られた。

新語部門は、竹下元首相らの再喚問が焦点になっている皇民党の『ほめ殺し』が金賞、『カード破産』が銀賞、銅賞は、花のお江戸にかけ上がった博多名物『もつ鍋』。

表現部門の金賞は、日本経済の今を鋭く分析したベストセラーの『複合不況』、銀賞は、『3K』よりはるかにきつい看護婦さんたちの『9K』、銅賞は、やたら謝罪する企業トップを皮肉った『謝長悔長』。

流行語部門は、テレビドラマのマザコン青年『冬彦さん』が金賞、銀賞はテレビCM『ねえ、チューして』、銅賞は金丸さんが教えてくれた『上申書』。

大衆語部門は毛利さんの『宇宙授業』、テレビCM『歌手の小金沢クン』、美人高校生殺人事件『ツインピークス』が金、銀、銅賞。

(注) この記事は、平成4年12月2日(水)の北日本新聞朝刊から掲載させていただきました。

海外渡航者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外国出張	理学部	助手	吉田 尚弘	タ イ	熱帯湿地林のガス代謝調査ほか	4.11.18 } 4.12.10
	人文学部	教授	藤井 一行	ロ シ ア	日本語をはじめとする外国語教育の視察 及びペレストロイカの諸様相の調査	4.11.18 } 4.12.2
	理学部	教授	広岡 公夫	イ ン ド	岩石試料採集ほか	4.11.25 } 4.12.10
	"	助手	酒井 英男	"	"	4.11.25 } 4.12.30
海外研修	経済学部	助教授	岩崎 政明	アメリカ合衆国	商品ファンド課税及び電気通信による証 券投資の課税問題に関する調査研究	4.11.15 } 4.11.25
	理学部	助教授	庄子 仁	"	アイスコアに関する研究打合せ	4.11.16 } 4.12.1
	経済学部	助教授	柳川 洋一	"	高齢化社会における医療政策の日米比較 研究	4.11.24 } 5.11.23
	理学部	教授	堀越 勲	ド イ ツ アメリカ合衆国	G.L.アムシュッツ教授の70才の誕生日 の祝賀講演会出席ほか	4.11.26 } 4.12.13
	"	教授	櫻井 醇児	フィリピン	1990年代の物理及び工学の国際学会に出 席ほか	4.11.30 } 4.12.8

職 員 消 息

《新任者住所》

人文学部

講 師 岸 田 文 孝

(朝鮮語・朝鮮文学)

外国人教師 吳 麗 艶

(中国語)

人文学部・理学部

文部事務官 松 田 信 和

(用度係)

理 学 部

文部技官 水 島 俊 雄

(物理学科)

《住所変更》

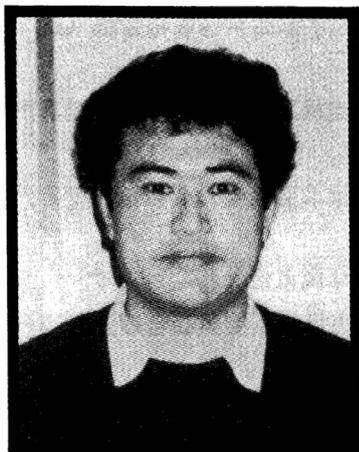
人文学部

助 教 授 村 井 文 夫

(比較文学)

〔訂正〕前号掲載の河井道子養護教諭の所属は、附属中
学校の誤りでした。

訃 報



工学部助手 山田 昌樹 氏 急逝

本学工学部助手山田昌樹氏が、海外研修先のアメリカ合衆国テキサス州ヒューストン大学において、平成4年11月24日（現地時間）肺水腫により逝去されました。享年32歳。

同氏は、昭和58年3月東京大学工学部工業化学科を卒業後、同大学大学院工学系研究科に進学、同63年4月同研究科第一種博士課程合成化学専攻を修了（工学博士（東京大学））。同年同月富山大学工学部工業化学科有機合成化学講座助手に就任され、平成2年4月学科改組により物質工学科物質化学工学講座に所属されていました。

同氏は、ヒューストン大学化学学部J.K.Kochi教授のもとでPostdoctoral Research Associateとして1年間、有機化学の研究を行うため、平成4年10月19日渡米されたものであります。

同氏は、有機合成化学、複素環化学、錯体化学を主研究分野とされ、学術論文「Oxidative Chlorination of 1, 10-Phenanthroline and Its Derivatives by Phosphorus Pentachloride in Phosphoryl Chloride Bull. Chem. Soc. Jpn. 1992」等20編余りの論文を公表され、研究者として、関係学会においてその業績を高く評価されるとともに、教育者としても、常に厳正な教育姿勢の中にも温情を持って指導に当たり、「良き先生」「良き兄」として学生・院生から尊敬され、慕われていました。

また、博士課程の設置を計っている工学部においては、将来を囑望されていた教育研究者であり、同氏の急逝は誠に惜しまれてなりません。

ここに、同氏の御冥福を祈り、謹んで哀悼の意を表します。

主 要 行 事

本 部

			研修会（於：京都パストラル）
		13日	第58回国立大学協会事務連絡会議（於： 学士会館）
11月2日	第2回体育部会		第4回自己点検評価委員会教育活動専門 委員会
	第13回新教育課程実施委員会作業部会		第2回教育改革整備委員会組織制度専門 委員会
4日	第50回東海・北陸地区国立大学長会議 （於：三重大学）		平成4年度学内卓球大会
	部課長会議		第4回自己点検評価委員会管理運営専門 委員会
	健康診断（婦人科検診）		第1回レクリエーション委員会
4～6日	平成4年度教職員文化展	16日	平成4年度第14回北陸地区大学等厚生補導 （自治活動）担当者研修会（於：KKR加賀）
5日	第1回教育改革整備委員会教育課程等移 行専門委員会		第3回庶務係長会議
	第3回学務関係係長会議	16～17日	第5回入学試験実施委員会
6日	第40回中部地区中堅係員研修（於：名古 屋合同庁舎第2号館）	17日	北陸地区人事担当課長会議（於：福井大学）
	第1回教育改革整備委員会組織制度専門 委員会	18日	第5回自己点検評価委員会研究活動等專 門委員会
	第3回自己点検評価委員会教育活動専門 委員会		第8回部局長懇談会
7日	平成4年度学内バレーボール大会		全国公務員レクリエーション共同行事富 山地区卓球大会（於：富山県総合体育セ ンター）
9～10日	平成4年度全国国立大学理学系学長会議 （於：金沢大学）	19日	第4回大学院委員会
9～10日	平成4年度東海北陸地区国立学校等施設系 職員研修会（於：国立立山少年自然の家）	20日	第10回評議会
9～11日	平成4年度国立学校等幹部職員（部長級） 研修（於：国立教育会館）		第2回自己点検評価委員会
9～13日	推薦入学等特別選抜願書受付（人文を除く。）		第3回教育改革整備委員会組織制度専門 委員会
10日	第14回新教育課程実施委員会作業部会		部課長会議
10～12日	第4回富山県地区国立学校等中堅職員研 修（於：富山医科薬科大学，国立立山少 年自然の家）	24日	平成4年度富山県留学生等交流推進会議 （於：高志会館）
11日	第4回自己点検評価委員会研究活動等專 門委員会		第5回入学試験委員会
	第2回教育改革整備委員会教育課程等移 行専門委員会	25日	第15回新教育課程実施委員会作業部会
11～12日	第91回国立大学協会総会（於：学士会館）		平成4年度退職者説明会
12日	第2回教育改革整備委員会教育課程等移 行専門委員会	26日	第2回学寮補導委員会
	第3回授業料等減免選考委員会		日本育英会奨学金返還説明会
	第5回補導協議会	26～27日	第3回教育改革整備委員会教育課程等移 行専門委員会
12～13日	第10回大学等廃棄物処理施設協議会総会	27日	共済組合担当者研修会（於：黒部荘）
			第8回事務協議会
			第4回教育改革整備委員会組織制度専門

委員会
第35回北陸六大学施設担当者協議会（於：
福井医科大学）
第2回教務委員会
30日 第3回体育部会

人文学部

11月5日 係長会議
9日 学部教育改革準備委員会
学部入学者選抜方法検討委員会と学部教
務委員会との合同委員会
学部入学者選抜方法検討委員会
11日 教授会
教授会（人事）
18日 学部教務委員会
24日 学部教育改革準備委員会
25日 教授会
教授会（人事）
人文科学研究科委員会
30日 学部将来計画委員会と学部施設委員会と
の合同委員会

教育学部

4日 大学院設置準備委員会
5日 カリキュラム委員会
5～6日 日本教育大学協会北陸地区会学長・副学
長・学部長・学部教員合同会議（於：金
沢大学）
9日 教育実習委員会
9～16日 附属養護学校入学願書・附属幼稚園入園
願書受付
10日 学部補導委員会
11日 学部教務委員会
教授会
人事教授会
18日 自然観察実習センター運営委員会
拡大学部将来計画委員会
25日 学部教務委員会
27日 入学者選抜方法検討委員会

30日 予算委員会

経済学部

11月2日 コンピュータ管理運営委員会と学部施設
整備委員会との合同委員会
4日 係長会議
大学院経済学研究科委員会小委員会
学部教育改善検討委員会
学部教務委員会
人事教授会
教授会
大学院経済学研究科委員会
6日 第9回夜間主コース設置15大学懇談会
（於：KKR東京竹橋）
9日 学部施設整備委員会
11日 教授会
12日 係長会議
13日 学部補導委員会
16日 学部入学方法検討委員会（持回り）
18日 学部職業補導委員会
教授会
20日 平成4年度秋季国立12大学経済・経営学
部長及び事務長会議（於：東京郵便貯金
会館）
25日 学部自己点検評価委員会

理学部

11月5日 係長会議
9日 学部教務委員会
学部入試改善委員会
11日 教授会
研究科委員会
人事教授会
19日 学科主任会議
24日 学科主任会議
25日 学科主任会議
26日 学科主任会議
27日 学科主任会議
30日 学科主任会議

工 学 部

- 11月2日 係長連絡会
 4日 学部拡大教務委員会
 5日 博士課程設置準備委員会
 10日 学部入学試験検討委員会
 工場運営委員会
 11日 教授会
 工学研究科委員会
 専任教授会
 17日 学部教務委員会
 24日 学部運営委員会
 27日 学部補導委員会
 30日 学部拡大教務委員会
 係長連絡会
 学部施設整備委員会
 小杉町立中太閤山小学校児童見学

教 養 部

- 11月4日 補導委員会
 10日 教務委員会
 11日 人事教授会
 教授会
 12日 将来計画委員会
 北陸・東海地区国立大学教養部長懇談会
 (於：岐阜大学)
 13日 教務委員会
 18日 将来計画委員会
 教務委員会
 25日 教務委員会
 将来計画委員会
 26日 補導委員会
 30日 教授会

附 属 図 書 館

- 11月
 5～6日 平成4年度北信越地区国立大学図書館研
 修会(於：新潟大学附属図書館)

- 5日 第2回附属図書館自己点検評価委員会専
 門委員会(資料整備等)
 第2回附属図書館自己点検評価委員会専
 門委員会(情報システム)
 9日 北陸地区国立大学図書館会計担当者会議
 (於：金沢大学附属図書館)
 10日 第3回附属図書館自己点検評価委員会専
 門委員会(管理運営)
 学術雑誌総合目録欧文編全国調査実施及
 びデータ記入説明会(於：名古屋大学)
 11日 係長連絡会
 12日 第3回附属図書館自己点検評価委員会専
 門委員会(利用サービス)
 13日 第3回附属図書館自己点検評価委員会専
 門委員会(情報システム)
 16日 第3回附属図書館自己点検評価委員会専
 門委員会(資料整備等)
 17～18日 平成4年度北信越地区国立大学附属図書
 館事務(部・課)長会議(於：高志会館)
 26日 北陸地区国立大学附属図書館システム担
 当者打合せ会(於：金沢大学附属図書館)

地域共同研究センター

- 11月13日 滋賀県立瀬田高校関係者視察
 18日 第6回経営者・研究者交流会
 28日 第2回技術セミナー(第3日目)
 30日 小杉町立中太閤山小学校児童見学

保健管理センター

- 11月19日 保健管理センター運営委員会
 保健管理センター委員会

編 集 富山大学庶務部庶務課
 富山市五福3190
 印刷所 あけぼの企画株式会社
 富山市住吉町1丁目5-18
 電話 (24) 1755代